

## 石井手取水堰跡



### 【解説】

- ・ 文化3（1806）年、島津家第26代齊宣が新田開発を主たる目的として甲突川飯山地区に取水堰を築き、右岸山手側に用水路(6.5 km)を開いた。

その結果として、小野・永吉・原良・武・荒田まで灌漑面積 120ha の田んぼに潤いをもたらした。石井手堰は平成5年8・6水害で一部流失してしまい、現在は右岸に壊れた堰の大きな石と石井手堰跡の記念碑が立っている。また、用水路の一部は、それぞれの地域で確認することができる。

### 【近くのトイレ・[休憩施設](#)】

### 【[アンケート](#)】